

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 5 報
千葉県農林水産部
平成30年7月12日

早生・中生品種の出穂期は平年より3～4日程度早い 出穂期後の水管理を徹底し、品質向上を！

斑点米カムシ類・いもち病・紋枯病の防除は確実に

[生育概況]

7月上旬は天候に恵まれ順調に生育が進み、4月20日植えの「ふさおとめ」及び「ふさこがね」の出穂期は平年よりも3～4日程度早まっており、「コシヒカリ」も2日程度早まっています。5月1日植えの「コシヒカリ」は、平年並みに推移しており7月24日頃から出穂期を迎えると予測されます。

また、6月下旬から7月上旬の強風により葉先枯れが見られました。

表1 品種別の出穂期

品種	植付時期	出穂期（一部、予測）（※）			
		県北 （成田市）	九十九里 （茂原市）	内湾 （千葉市）	県南 （館山市）
ふさおとめ	4月20日	7月9日	7月8日	7月8日	7月8日
ふさこがね	4月20日	7月11日	7月8日	7月8日	7月8日
コシヒカリ	4月20日	7月19日	7月16日	7月15日	7月16日
	5月 1日	7月29日	7月25日	7月24日	7月25日
	5月10日	8月2日	7月29日	7月28日	7月29日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月25日			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	8月1日			

（※）出穂期とは全莖数の40～50%が出穂した日。「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コシヒカリ」は水稻作柄安定対策調査結果およびH28千葉県試験研究成果普及情報等から（一部、幼穂形成期からの予測値）。飼料用米は栽培事例からの予測値。

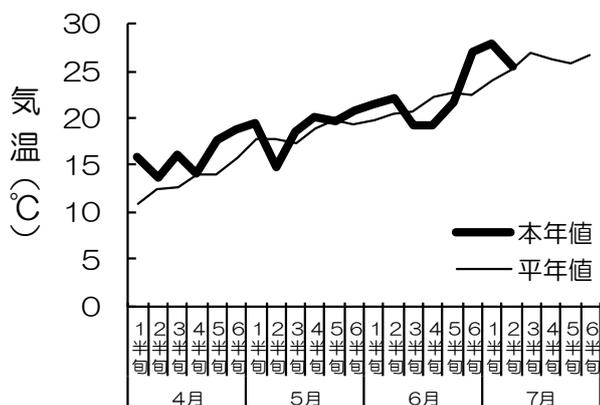


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

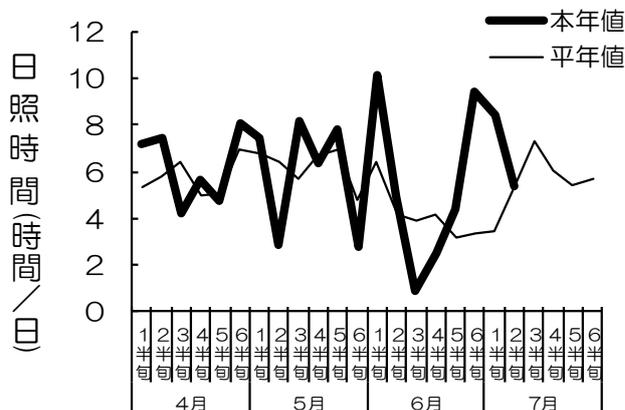


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 穂肥の実施

5月に植付した「コシヒカリ」は、穂肥の時期となります。生育に応じて適期に穂肥を実施しましょう。（詳細は「水稻の生育状況と当面の対策」第4報を参照）

■ いもち病、紋枯病の防除

「病害虫発生予察第4報（7月11日）」によると、いもち病の予想発生量は「やや少」、紋枯病は「やや多」となっています。（防除薬剤は「水稻の生育状況と当面の対策」第4報を参照）

■ 斑点米カメムシ類の防除

同予察情報によると、斑点米カメムシ類の予想発生量は「並」となっています。

大型カメムシ類の防除適期は、成虫飛来期の穂揃期と幼虫発生初期の出穂15日頃です。穂揃期頃に共同防除を実施した地域においても、その後、出穂7日後から14日後頃の乳熟期に斑点米カメムシ類が多く見られた場合は、農薬の収穫前使用日数、使用回数に注意し、追加防除を行いましょ。

また、周辺より出穂の早い水田や、特に遅い水田では集中的に加害されやすいため、主食用米・飼料用米いずれも発生に応じた防除が必要です。

表2 斑点米カメムシ類の防除薬剤

収穫前使用日数	薬剤名
収穫7日前まで	エルサン粉剤3DL、エルサンバッサ粉剤20DL、トレボン粉剤DL、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、スタークル（アルバリン）粉剤DL、ダントツ水溶剤、ダントツ粉剤DL
収穫14日前まで	MR.ジョーカーEW、キラップフロアブル、キラップ粉剤DL、トレボンMC、ベストガード粉剤DL
収穫21日前まで	スミチオン乳剤、スミチオン粉剤3DL、アクタラフロアブル

（※）農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

■ 乳白米の発生を防止する水管理（用水を大切に）

～出穂14日後までは湛水管理を行いましょ～

4月20日頃に植付した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は出穂期となり、「コシヒカリ」は間もなく出穂期となります。7月上旬より高温が続いているので、出穂14日後までの間は湛水管理をしっかりと行い、品質低下を未然に防ぎましょ。

また、その後、出穂14日後から出穂25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、コンバイン収穫に備えましょ。なお、排水不良田では、出穂25日後に田面が露出するよう、出穂20日後頃を目途に落水を行いましょ。

なお、早期落水は品質低下を招く原因となります。ほ場毎に適切な水管理を行いましょ。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、7月27日発行予定です。